

みんなの夢を芽吹かせたい 「かわさき芽吹塾」



かわさき芽吹塾(めぶきじゅく以下「同塾」という)は、さまざまな理由で学習塾に通うことができない中学生や高校生に、大学生を中心としたボランティア講師が勉強を教える無料塾です。高津区や中原区の会場で、毎週土曜日の夜に開講しています。

何もできないコロナ禍だから始められた

代表の吉沢春陽さんは、高校時代から貧困問題に関心があり、海外でのボランティア活動を希望していました。ところが、高校卒業を前に新型コロナウイルスの感染が急速に拡大し、大学入学時には緊急事態宣言が発出され、それどころではなくなっていました。それでは、日本にいて何かできることはないだろうかと考える中で、吉沢さん自身が塾の講師に人生を変えてもらったと感謝していること、塾講師のアルバイトの経験があることから、学習支援のボランティア活動を思い立ったそうです。

「親に言われてイヤイヤ塾に通っている子もいれば、やる気があっても塾に通えないため、勉強がわからない子も多くいる。勉強がしたくても十分にできない子どもたちをサポートしたい」と、高校時代の部活動(バレーボール部)の仲間である副代表の菊水優太さんに打ち明けて、2021(令和3)年5月、手探りで活動を開始しました。二人の活動に賛同した部活仲間が加わり、さらにSNSを通して輪が広がって、立ち上げから1年経った現在、生徒は35人、ボランティアは45人の大所帯となりました。自分で同塾を見つけて申し込んできた中学生など、生徒は皆やる気に満ち、近隣からだけでなく、川崎市全域から集まっています。

生徒一人ひとりに合わせた学習支援

取材した日の会場は高津市民館の会議室。室内には、真剣に学習に取り組む中高生と、それを見守る講師の皆さんの姿がありました。生徒と講師のマンツーマンだったり、生徒2人に講師が1人ついていたり、個別指導塾のようなスタイルです。ボランティア講師はそれぞれ自分の得意科目の学習を受け持ち、生徒一人ひとりに合わせた内容の支援をしています。中高生にとって、ちょっと年上の先輩である大学生が講師ということで、親しみやすく気軽に学習相談ができるという利点もあるようです。



◀授業の様子

喜びと課題

活動するためには、会場使用料を支払ったり、学用品を購入するなど、資金が必要です。寄付を募ったり、スポンサー企業を探したりといった苦労があります。大学3年生の講師が多いので、活動を引き継いでもらうため、下の代の講師を確保していくことも課題としてあります。

ボランティア講師の楽しみや魅力を聞くと、「生徒の成績が伸びた時」「やる気がある生徒ばかりで教えがいがある」「生徒たちの学校はバラバラだけど、この塾を通して仲良くしている状態がすごくいい」「コロナ禍でサークルにも入れず、人とつながるチャンスがなかった。この活動に加わって新たなコミュニティが見つかり、充実した学生生活を送ることができている」という答えが返ってきました。

助け合いの連鎖を

「食品ロスが問題となっている一方で、一日に一食しか食べられないという子もいます。また、家族の世話に追われて勉強する時間も睡眠時間も十分にとれないヤングケアラーの問題もあります。食糧支援や、生活環境を整える活動も行っていきたい。貧困の連鎖ではなく、人に支えられた経験を忘れずに、自分に余裕ができたなら、かつて自分がしてもらったように困っている人を助けようとするような、良い連鎖ができるといいですね」と、吉沢さんは照れくさそうな笑顔でこれからの夢を語っていました。

同塾ホームページのブログで“卒業生メッセージ”を読むと、「人の役に立てるような人になりたいから」「自分の未来に向けて、今を全力で楽しみ、周りの人のために積極的に動き、“ありがとう”と“ごめん”の感謝を言える大人になりたい」とありました。講師の皆さんの蒔いた種が、芽吹きつつあるようです。

自己実現と社会貢献が同時にかなうかのような同塾の活動。キラキラした目の若者たちを応援したくなった方、詳しく知りたくなった方は、ぜひ同塾のホームページをご覧ください。



▲ボランティア講師の皆さん

■問合せ

かわさき芽吹塾(無料塾)のホームページ
お問い合わせフォームからご連絡ください

<https://mebuki-gakushushien.com>

